

■第3回 議事要旨

日 時：令和6年9月12日（木） 14：00～16：00

場 所：長与町役場水道局3F会議室

出席者：委員9名、オブザーバー4名、事務局4名（※長崎新聞社取材）

1 教育長より

前回、前々回は、小学校と中学校にそれぞれ足を運んでいただき、学校現場の空気感の中でご意見を頂戴しました。義務教育学校については、議会の方でも興味を持っていただいております、産業文教常任委員会の議員の方々も「ほそごう学園」を視察されています。本日も十分に議論を重ねていただき、次回、答申を出していただけたらと考えております。

2 事務局より

- ・ 前回までの主な意見等の振り返り（※別紙一覧表参照）
- ・ 本日の協議事項の確認

3 協議内容

（1）教育内容（教育課程）について

① 小中の英語教育の現状

前回、義務教育学校では英語教育に力を入れた方がよいという意見が出ていたが、現在の小学校と中学校の英語教育はどうなっているのか？

- 小学校では、ゲーム的な活動を多く取り入れ、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わわせながら、英語に慣れ親しませている。また、高田小には、外国語専科が配置されており、5・6年生の外国語科では専門的な指導が行われている。
- 中学校でも英語の授業で生徒の活動的な姿が多く見られる。英語で話すことに抵抗感をもつ生徒もいるが、友達同士で尋ね、答え合う活動を通して、ある程度話せるようになってきている。公立高校の入試改革により、英検が要件の一つとなったため、学校としても英検に力を入れている。
- 私が小学生の時はまだ英語はなかったが、今の小学生にはどれだけのことが求められているのか。昔は、基本的には受験英語だったが、今は、話せることやコミュニケーションが取れることの方が重要なのではないか。
- 全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果を見ると、他教科に比べて英語を嫌いとする児童が全国と同様に本町も多く、教育委員会としては、小学生の英語嫌いを何とかしないといけないという危機感をもっている。

② 小中の英語教育の円滑な接続

小学校の外国語科と中学校の英語科の接続に課題があるようだが、どうしたら円滑な接続ができるか？

- 学習指導要領レベルでは、小学校と中学校の英語教育は繋がっている。しかし、小学校の教員が「中学校の英語のことをよく知らない」という現状があるのではないか。
- 小学校で外国語の指導が始まった当初に比べて、英語嫌いになっている児童が増えていると感じる。当初は、高学年も外国語活動としてスタートしたが、外国語科になったことで少しハードルが上がった感じがする。
- 文部科学省の願いは、「英語を嫌いにしない」ということである。しかし、実態としては、内容を欲張りすぎていて、ついていくのがきつい子供がいる。だから質問紙のような結果になってしまっているのではないか。
- 英語に限らず、子供が教科を嫌いになる理由は評価をするからだと思う。しかし、教科となると、教科書があつて、そこには評価も必要となるので、もう少し緩やかで楽しめるようにしてあげたらいいのでは。
- 英語を好きでいるためには、やっぱり授業が楽しいってところが一番だと思う。先生方には子供たちが英語を好きになる授業をしていただきたい。
- 9年間の繋がりを上手に使う、せつかく中学生がいるのであれば、上級生が英語で話しかけて下級生が英語で答えるなど、子供同士で教え合うようなことができたらいと思う。
- 英語をいかに嫌いにならないように、楽しくなるように、継続して教えることができるかが重要であり、義務教育学校の教育内容の重要な柱になるのではないか。
- 英語以外にも、理科嫌いや社会嫌い、子供の得意不得意などがある中で、子供たちが安心して見通しを持って学べるように、教育課程もだが、授業の進め方なども大きく変わらない方がよいと思う。

③ 英語教育の他に

英語教育の他に、義務教育学校において、9年間を一体として子供たちに学ばせたいことは？

- もし、自分が校長だったら、第1に「英語」、第2に「情報」を学ばせたい。そして、第3に「地元の人たちもこれだと思う、高田ならでは、長与ならではのもの（ふるさと教育）」があった方がいい。

- 日本人は、お金のことについて勉強しないまま社会人になっていることに危うさを感じる。海外では、幼少期からお金の勉強を積み重ねている。9年間の義務教育学校では、ぜひ「金融教育」を行ってほしい。
- 将来の夢や職業を考えている子が少ないように感じる。なりたいたがなくとも、こういう生活がしたいなど、小さい頃から先を見通して考えることは大切だと思う。

④ キャリア教育の現状

現在、小学校や中学校でもキャリア教育は行われているようだが、現状はどうなっているか。

- 高田小では、学校での係活動や当番活動もキャリア教育の一貫として位置付けている。集団の中で自分がどういう役割を果たせるか、自分がやりたいことをできるかといったところからスタートしている。
- 小学校の総合的な学習の時間では、職業について調べる学習がある。また、「なりたい自分」という視点で、キャリアパスポートに自分の記録を積み重ね、上学年そして中学校に繋げる活動を行っている。
- 高田中では、キャリア教育を各教科でも行いながら、特に総合的な学習の時間で企業体験等を行っている。過去には、福岡の企業を呼んで金融に関する学習も行ったことがある。
- 総合的な学習の時間では、小学校と中学校で重複する部分もあり、ふるさと教育やキャリア教育など、小学校と中学校を一体化して考える必要がある。平和学習なども小中の繋がりを考えて見直したい。

⑤ 教育課程の自由度

義務教育学校は、教育課程の自由度が増すという話が前回から出ているが、教科等はどの程度自由にできるものなのか。

- 基本的には学習指導要領の内容は入れないといけないが、多少重複を省いたり前倒しをしたりすることはできる。しかし、教科書はそう簡単にはいかない。品川区では、道徳と特活と総合を一緒にして「市民科」という教科を作り、独自の教科書も作った。当時はまだ義務教育学校が制度化されていなかったもので、今はもう少し柔軟になっているのではないか。
- 学習指導要領の内容については、小学校であれば1学年か2学年で、中学校であれば3学年まとめてか1学年ごとで融通が利く。学習指導要領は基準であるので、小学校6年生の段階で中学校の内容を入れることは可能だが、実態に応じることが大前提である。

- 基本は、学習指導要領の内容をきちんと抑えないといけない。その中で、カリキュラム・マネジメントをうまく行い、9年間を一体的に考えて教育課程を作れると考えてよいのでは。

⑥ 留意事項等

義務教育学校の教育内容について、他に意見はないか。(留意すべき点や期待する点など)

- 品川区では新しい学校づくりの取組を全ての学校で行ったが、長与町は違う。そうした場合、何か特別なことをやろうとすると、「どうして高田だけいいことをするのか？」みたいな感じになるので配慮する必要がある。
- 新しい学校の強みは小中が一緒であることだから、その強みを活かす内容を考えないといけない。教科ごとに小と中の先生方が集まって、学ぶ内容を9年間で分けずに考え直し改善することは絶対にやった方がいい。
- 高田の義務教育学校を、これからの長与町の義務教育のモデル校とするのか。モデル校にするのであれば、長与町は9年間でどんな子供たちを育てたいのか、そのためにどんな教育内容を行うのかを考える必要がある
- 他の学校も小中連携はしているわけだから、高田が震源地となって、他の学校でもできるものを発信し広げていく。他の学校でもできるものは、例えば、洗切小と第二中のように義務教育学校でなくてもやった方がよい。
- 学校教育は、子供たちが学ぶためにある。自立するためにある。個人の可能性を伸ばすためにある。もっと言えば、望ましい未来社会の担い手になるため、個人の明日や社会の未来を作るためにある。そのために何が重要かという視点で教育内容を考えたい。
- 小学校と中学校は、受験のあるなしなど文化の違いがあると思うが、そこをすり合わせて、教員同士がうまく連携ができる仕組みを作ることが大事だと思う。

④ 教育委員会の覚悟

義務教育学校の教育内容を考える際に、答申によっては、教育委員会としての覚悟が求められるように思うが、どのように考えておられるか。

- 答申を具現化するにあたって、教育委員会として考えなければならないことは、中心に子供を置くこと、子供のためにやるということである。
- 子供のためになるか、ならないかという視点でしっかり吟味してカリキュラムを入れ替えるなど、子供のためになることは思いきりやっていきたい。キーワードは「子供たちが嫌いにならない〇〇教育」だと考える。

(2) 地域と学校の関係について

義務教育学校と地域をどう繋ぐか、どう繋がるかについて、それぞれの立場でどのように考えておられるか。

① 地域関係者の立場から

- 高田には道の尾獅子舞などの郷土芸能があり、小学校でもやってもらっているので今後も続けてほしい。地元のいろいろな人からの伝承などを学んでいく場を作ってもらえれば、地域の自然や人との繋がりもできると思う。
- 子供たちが地域の中に入って来ないという現状がある。子ども会がないことも子供と地域との繋がりを失くしている一因ではないだろうか。
- 町内の一斉清掃で子供たちにも町内や地区をきれいにしてほしい。その中で地域の方々と交わることが大事だと思う。
- 高田地区には、地域の子供を地域で育てるという風土がある。地域の中で顔見知りや顔なじみといった関係を大事にしたい。「おはよう」「おかえり」と自然に声を掛けられるような関係でありたい。

② 学校関係者の立場から

- 高田小では、総合的な学習の時間の米作りや、生活科の芋作り、伝統芸能についても地域の方に指導していただいている。他にも、図書ボランティアや交通ボランティアなど、地域の方々のお力を借りて子供たちを育てている。
- 高田中では、除草作業の時は、地域の方が朝早くから集まってきれいにしてくださっている。総合的な学習の時間では、梅干し作りや龍踊りを地域の方に指導していただいている。
- 学校と地域との繋がりが少し薄れてきている感じがする。コロナ禍で行事が縮小したことも一因かと思う。除草作業にも以前は子供たちもほぼ全員集まっていたのが少なくなっている。また、地域の方の学校への協力や学校への思いを教員にもう少し知ってもらう必要がある。

③ 保護者の立場から

- 地域と子供の繋がりは、地域とお母さんたちの繋がりとも言える。しかし、フルタイムで働かされているお母さんたちには、平日に何かを求められることはすごく難しい。
- 子供たちの放課後の居場所みたいところが地域にあると安心できる。お母さんたちにとって、誰か手を差し伸べてくれる方が地域にいらっしゃるといのはすごく心強いと思う。

- 親同士の繋がりをいかにうまく作っていくか、このことが子供と地域を繋ぐ重要なポイントになりそうである。

④ 教育委員会から

- コロナ禍前になるが、教育委員会では、子供たちの自立の促進と家族への感謝の心の醸成を目的として、子供たちが数日間家庭を離れて自分たちで生活し、学校にも通う「通学合宿」という取組を地域の方の協力をいただいで実施したことがある。例えばだが、それぞれの自治会にある公民館を使って、義務教育学校の9年間において自立が促進されるよいタイミングで、この「通学合宿」ができないかと考えている。
- 大阪市に、地域にかなり開かれた活動をされている大空小学校という学校がある。大空小学校では、保護者に限らず、地域の方々がサポーターや地域コーディネーターとして継続的に学校に関わられている。保護者の方は6年または3年で変わるが、地域の方は変わらない。だから、ずっと見守っていただける。こういう方々がいらっしやると、学校の運営はすごくやりやすくなる。義務教育学校にも導入できればと思っている。

(3) 義務教育学校への願い

義務教育学校の教育内容や地域との繋がりについて議論を重ねてきたが、その他、義務教育学校に対する願いなどがあれば。

- 今の子供たちの人間関係は、どちらかという横の繋がりである。地域の方の負担を軽くするために、義務教育学校の9年間の縦の繋がりを使って、中学生の先輩たちがリードする通学合宿もいいのではないかな。子供同士の繋がりがより強固なものになる。
- 高田の義務教育学校がスタートする際に、子供たちにも学校づくりに参画させたい。また、生徒会が中心になるなどして、地域づくりにも主体的に関わらせたい。そうすることで、地域の方々や保護者の方々の協力者となる中学生が出てくるのではないだろうか。
- 縦の繋がりを大切にしてほしい。せっかく9年間の繋がりができるのであれば、上級生が下級生を見ていくことで責任感も生まれると思う。下級生は上級生を見て目指す方向や姿が出てくるとすごくいいなと思います。そこに地域の方が温かく関わってくださるとすごく安心します。
- 小学校には縦割の活動があって、6年生が1年生の面倒を見るというのがあったが、中学校はそういった活動はないのか。部活に入れば先輩ができると思うが、9年間であればそういう繋がりが深まると思う。

- 小中連携の大切さを改めて感じた。どうしても中学校は中学校で、小学校は小学校でというところが今までずっと続いてきているので、融合し繋がっていけば、もっとやりやすくなる場所が多くなるのではないかと感じる。
- 高田地区の地域力は、他の学校から見てもすごいと思う。新しく引っ越して来られる方が、子供との関わりの中で、地域の繋がりを大切にされている方々の思いやエネルギーに触れ、地域と関わる良さや楽しさを見だし、ゆくゆくはそれを継承していただけるようになれば、将来的に持続可能な地域の繋がりになると思う。
- 学校も地域に力を貸さないといけない。義務的なものになるとお互い窮屈になるので、自然な形でできればと思う。その中心にいるのは子供たちなので、学校と家庭、そして地域が共に手を携えていきたい。

(4) 答申の方向性について

- 答申の基本的な骨格は、本日の資料の4つの柱で構成する。それぞれの柱については詳細すぎる内容では趣旨が分からなくなるので、少し抽象的な表現で内容をまとめる。
- 次回、第4回の検討委員会で、答申案を検討し、その結果を本検討委員会の答申として金崎教育長に提出する。